

流星刀

富山に落ちたいん石

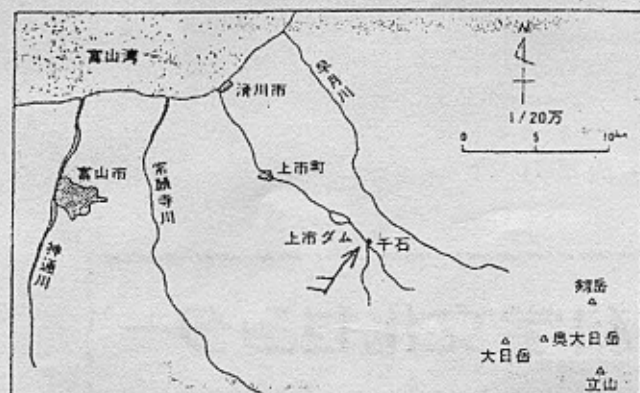
空から落ちてくる石をいん石と呼びます。約46億年前、太陽系が生まれたころ、惑星を造った石が現在も太陽系の中をただよっています。この石がたまたま地球に飛びこんで、燃えつきずに地上に落ちたものがいん石です。いん石の中には石でできたもの、石と鉄がまじりあったもの、ほとんど鉄でできたものの3種類があります。

富山県にもいん石が落ちたことがあります。ただし、降ってきたのを見たものではありません。上市川の上流で拾ってきた石が、あとでいん石であることがわかったのです。最初はその石はいん石とわからず、つけもの石に使われていました。しかし、普通の石にしては重すぎるし、形も変わっているので（下図参照）、農商務省にもちこまれ、約90%が鉄でできているいん石であることがわかりました。このようにほとんどが鉄でできているいん石はいん鉄と呼ばれています。このいん鉄は発見された地名にちなんで、^{しろはぎ}白萩いん鉄と名づけられました。

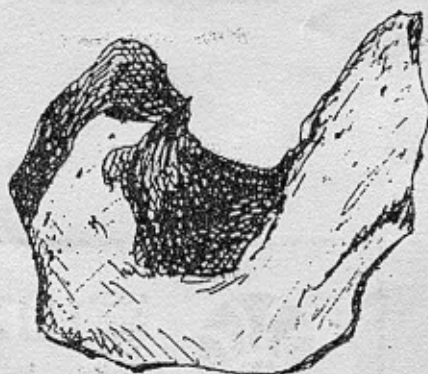
えのむじたけあき

榎本武揚と流星刀

さて、当時の農商務省の大臣は^{えのむじたけあき}榎本武揚でした。榎本武揚は幕末にオランダに留学し、明治政府では樺太千島交換条約などの外国との交渉に



白萩隕鉄の落下場所



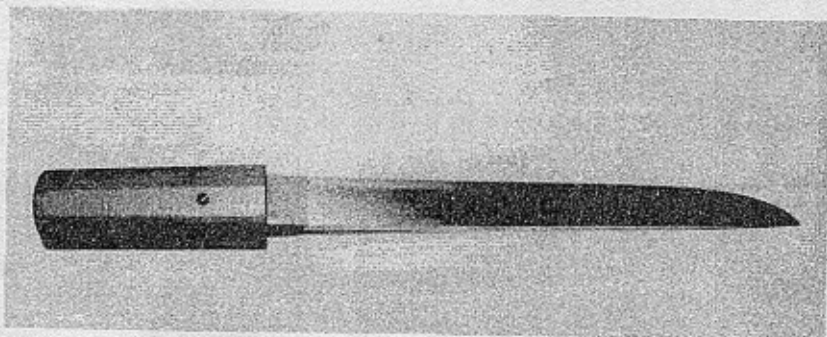
白萩いん鉄の図

努力しました。榎本武揚はロシアに滞在しているときに、いん鉄で造られた刀を見てたいへん感動したと記録しています。

榎本は白萩いん鉄の発見を聞き、そのいん鉄を購入し、明治31年にその一部を使って刀を造らせました。いん鉄は普通の鉄以外にニッケルなども混ざっているのです、刀を造るのに苦労しました。結局、いん鉄7割に対して、中国産の玉鋼^{たまはがね}3割の割合で混ぜ、苦労して造られました。流星刀のうち、もっとも美しい大刀が時の皇太子（後の大正天皇）に献上されました。この流星刀には他の刀と違い、美しい木目模様があるのが特徴です。流星刀を造る様子は榎本武揚自身が著した「流星刀記事」に詳しく書かれています。この文献はいん石に関するわが国初の科学文献で、いん石の成分などが詳しく記録されています。

今回の「地球－生きてる大地－」では東京都東久留米市の榎本武揚氏のご好意で、流星刀の短刀、榎本武揚自筆の「流星刀記事」を展示します。めったに見ることのできないものですので、多くの方のご来館をお待ちしております。なお、地球展は今話題の火山や地震などを実物や体験などでわかりやすく解説し、7月20日から10月6日まで開催しております。（渡辺 誠）

参考文献：早川和夫「榎本武揚の流星刀と流星刀記事」（昭和56年）



流星刀



富山市科学文化センター

〒939 富山市富山市西中野町1-8-31

電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成3年 7月10日発行